

信仰は聞くことから

学院長・宗教総主事 佐々木 哲夫

⁹ サムエルに言った。「戻って寝なさい。もしまた呼びかけられたら、『主よ、お話しください。僕は聞いております』と言いなさい。」サムエルは戻って元の場所に寝た。

¹⁰ 主は来てそこに立たれ、これまでと同じように、サムエルを呼ばれた。「サムエルよ。」サムエルは答えた。「どうぞお話しください。僕は聞いております。」¹¹ 主はサムエルに言われた。「見よ、わたしは、イスラエルに一つのことを行う。それを聞く者は皆、両耳が鳴るだろう。

¹² その日わたしは、エリの家にご報告のことをすべて、初めから終わりまでエリに対して行う。

サムエル記上 3章9節～12節

¹⁷ 実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。¹⁸ それでは、尋ねよう。彼らは聞いたことがなかったのだろうか。もちろん聞いたのです。

「その声は全地に響き渡り、

その言葉は世界の果てにまで及ぶ」

のです。

ローマへの信徒への手紙 10章17節～18節

＊

フランスの南の町、モンペリエにファーブル美術館があります。そこに、ジョシュア・レイノルズの「幼きサムエル」の原画が飾られています。絵は、白い寝間着姿の4歳ぐらいの男の子が、暗闇の中で正座し、両手のヒラを祈るように合わせて前方を見上げている構図です。絵の人物は、サムエルです。当該箇所を概観したいと思います。

＊ ＊

イスラエルにエルカナという男がいました。彼には二人の妻がおり、一人は、ハンナ、もう一人はペニナです。ペニナには子供がいましたが、ハンナにはいませんでした。エルカナは、神に感謝のささげものをするため毎年一家全員で神殿に出向きます。彼は、人数に応じて、ペニナとその息子たちと娘たち、また、ハンナに、ささげものの分け前を与え共に食事をしました。ところが、ハンナは、ペニナが敵対的な態度をとることで思い悩み苦しむ、涙を流し、食事



もとらずに塞ぎ込むという状態でした。ハンナは、思い余って神殿に赴き、泣きながら祈りました。「男の子をお授けください。その子の一生を聖なるものとして主に捧げます」と誓いをたてて祈ったのです。

やがて、ハンナは、エルカナによって男の子を授かり、子の名前をサムエルと名付けました。神に誓った通り、ハンナは、乳離れしたサムエルを祭司エリに委ねたのです。神はハンナを顧み、その後、ハンナに、息子三人、娘二人が与えられます。他方、サムエルは、主のもとで成長したのです。

ある夜のこと、神殿に寝ていたサムエルを「サムエル、サムエル」と呼ぶ声がします。サムエルは起きて、「お呼びになったので参りました」と年老いたエリのところに行きます。「私は呼んでいない。戻っておやすみ」とエリは答えます。同じことが三度繰り返されたので、エリは悟ります。「今度呼ばれたら、主よ、お話してください。僕は聞いております」と答えなさいとサムエルに教えました。

以上が本日の旧約聖書箇所（サムエル記上）の文脈です。興味を惹かれる表現が 11 節です。主の言葉「聞く者は皆、両耳が鳴るだろう」です。原語のニュアンスは、シンバルのような音です。主の裁き（さだめ）が下ることを告げる厳しい場面に使われています。サムエルに裁きの言葉が神から告げられたのです。なんと、祭司エリの後継者の二人の息子（祭司ホフニとピネハス）が、ならず者で、主を知ろうともせず、捧げものを横取りし、私腹を肥やし、主をないがしろにしていたのです。父親のエリも、主よりも二人の息子を大事にしていたのです。それほどに腐れたエリ（祭司）の家に裁きが下り、彼らの命が奪われるとの言葉を主はサムエルに告げたのでした。

神の言葉は、聞く者が幼いからといって、割り引かれることはありません。また、修行などにもよらず、言葉を聞こうとする者に与えられます。それは、サムエルの時代だけでなく今日にも妥当します。聞くことは始まりなのです。本日の新約聖書箇所（ルカ 11:1-13）です。

実に、信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まるのです。

今日、私たちは、聖書の言葉を通して聞く者です。キリストの言葉を聞くことによって信仰は始まっているのです。興味深いことに、サムエルが言った「主よお語りください」の「語る」は、「出来事」との意味もあります。すなわち、語ることは、その語る内容が起きることも意味されています。同じく、「聞く」には「聞く人が聞いたことを行う」の意味も含まれています。語る言葉は実現され、聞く言葉は行われる、が期待されています。「信仰は聞くことにより、しかも、キリストの言葉を聞くことによって始まる」は、私たちに伴う言葉として語られております。

幼きサムエルの絵を描いたレイノルズは、肖像画を得意とした画家でした。イギリスのロイヤル・アカデミー初代会長として画家の職業人としての地位を確立させた方でした。おそらく、画家だけでなく職業人として一生懸命に働いたのでしょう。彼の言葉として「君が偉大な才能を持っているならば、勤勉がそれにみがきをかけるだろう。君がふつうの能力しか持っていないなら、勤勉がその不足を補うだろう」が残されています。幼きサムエルの絵には、神の言葉を聞こうとする者の内面が描かれているので私たちの心を惹くと考えられます。

(2023 年 4 月 26 日)